

提出日：令和 3年 3月 1日
所 属：獣医 学部 獣医 学科
氏 名： 杉田和俊 職位： 講師

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

公衆衛生学の一分野である環境衛生学を中心に、地球環境の現状や公害などの歴史などを教えている。特に地球環境問題は、現在進行形の問題であると同時に、個人でも環境保全活動が可能である。自分が何をすべきか、何ができるのかを考えて、実行できるよう指導する。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
獣医公衆衛生学実習	獣医学科	必須	4年	140名
獣医公衆衛生学Ⅲ	獣医学科	必須	5年	140名
公衆衛生学	動物応用科学科	選択	4年	70名
機器分析化学	動物応用科学科	選択	3年	60名
機器分析化学実習	動物応用科学科	選択	3年	60名
環境計量学演習	環境科学科	選択	4年	10名

2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

講義では、現在の事象に対応するため、過去の事例を学習する。現在は過去の積み重ねであり、現在を理解するには過去に学ぶことが重要である。結果としての現在を理解するために、原因としての過去を学び、間違った方法は改め、より良い方策を導き出し、現在に生かすことが必要である。

また、実習では環境衛生や食品衛生における評価方法を実際に試行し、その原理を理解する。つまり、現在の衛生状態や環境状態を把握するためにはその評価方法を習得し、測定しなければならない。その方法を学ぶのが実習である。獣医公衆衛生学実習では、実学として、食品衛生や環境衛生の評価方法を学び、実際の測定・評価を行うことから全体(公衆衛生)を考えるきっかけを作ってもらいたい。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方, 方法）

実際に役に立つ技術を身につけることが重要である。

アクティブラーニングについての取組

現在はレポート提出を課している。

今後は提出してもらっただけではなく、そのレポートを活用した講義を目指したい。

ICT の教育への活用

今年度は遠隔授業を実施したが、一方通行であった。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①教育（授業，実習）の創意工夫（A～C） C

環境衛生では専門用語も多く、なるべく平易な言葉で説明したが、なかなかうまく伝わらないように感じた。→講義や実習でより良い理解をさせるためには、予習が重要であると感じた。

②学生の理解度の把握（A～C） B

小テストの導入。その日実習したことや習ったことを復習するために、小テストを導入した。

③学生の自学自習を促すための工夫（A～C） C

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A～C） B

⑤双方向授業への工夫（A～C） C

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

国家試験に取り上げられた検査方法や試験方法を実習に取り入れた。
講義では国試に取り上げられた事項について強調して説明した。

5. 学生授業評価

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

オンデマンドの動画資料について、音声などはヘッドレストを用いることで改善したつもりだが、音声自体が聞き取りづらいこともあり、不十分であると感じている。また、動画では写っていることに集中できるよう、音声ではなく、字幕を入れたが、音声の方がよかったようである。

② ①の結果はどうでしたか。

特に反応はなし。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

ヘッドレストを用いて、なるべく目の前に受講生がいることを想像して、話すように心がけ

る。

6. 学生の学修成果

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

・ 予習のための教材をなるべく早く提供する。

② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

様々な意見をいただきました。(機器分析化学及び同実習から)

十分な用意がされておらず、毎回余計な時間がかかってしまう。また先生一人では見切れない人数であることはわかるのに、TA が誰もおらず先生に質問するのも時間がかかる。

実習では適切な説明がないままスタートし、先生を呼んで質問しないと分からないことがほとんどだった。機器の使い方は分からないままの人も多い。また、音声付き PP の音声がついていないものがあり、授業として成り立っていないように思う。

まず、班によって授業終了時間が 2 時間以上も異なることが多々あり、平等性に欠けると思った。レポート課題においても理解している生徒もいれば、全く理解できていない生徒もいるので、授業の構成や課題の提示の仕方に問題があるのではないかとと思われる。今一度授業のやり方を考えなおしてほしい。

実習と講義で学理上の項目が違うため、資料が実習の方にあったり講義の方にあたりと分かりづらかった。また、期限なども途中で変更され、実習中に不足しているものが多いなど困惑した点が多かった。また実習中に配布される資料が要点のみをまとめているので全体として理解するのに時間が掛かった。

授業実習の進め方、課題の内容・提出締切日があいまいかつコロコロと変わるので不安になった。できるだけ実習時間を早く終わるようにとされているのに、19:30 まで説明もなしに延長が起こりイライラした。また、密集して行うことが多いことと、実習での説明で先生がマスク・フェイスシールド両方なしで説明を行ったときは不快であった。

全ての実習で実習書を用意していただきかったのと、スライドにない内容を小テストに記載されていたので難しかったです。

折角、実習と授業がセットになっていてわかりやすいと思うのに、実習自体が何をやっているか・どうしたいのかの説明がなく待ち時間も長いうえに、授業がアップロードされないののでやる気を失う。結局何を学んでほしいのかもわからなかった。

以上です。

7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況)

FD 研修には参加してきたが、時間的に学生の指導など参加できなかった時がある。

8. 今後の目標 (理念の実現に向かう今後のマイルストーン)

講義については、体系立ててわかりやすい構成を考えたい。

獣医公衆衛生では国試に出やすいポイントなどを強調し、詰め込むより、自分で調べ、その内

容が身につくような課題を考えたい。実習では、原理原則が理解できるような予備講義と実際に行う実習とを組み合わせ、印象に残るような実習を心がける。

動物応用科学の機器分析化学については、講義では基本原理について講義を行い、実習については大きなテーマを与え、講義で得た知識を活用できる実習を行う。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ